



### 発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟  
<http://dohekifuku.zenhekiren.net/>

委員長 古田 統  
 編集責任者 佐藤 正由  
 印刷所 山東印刷株式会社  
 夕張郡栗山町中央2丁目245 TEL 0123-72-1151  
 題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

## 10次長計の着実な推進と 成果の共有を期待して

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 古田 統



『緑濃き空知の沃野から次世代を担う子らに未来を切り拓く たくましい力を！』のスローガンのもと、第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会を9月19日・20日に300名を超える参加者を迎え盛大に開催出来ましたことに、改めて感謝申し上げます。特に空知へき地・複式教育研究連盟、分科会会場校など関係者の皆様には加盟校が激減している中での準備・運営・発表等にご尽力を頂いた事に深く敬意を表します。

空知大会分科会では、課題5【学ぶ意欲を高める指導方法の改善と充実】、課題6【主体性を育てる学習指導過程の改善と充実】を中心とした授業を公開していただき、「深い学びに繋げるための練り合い・高め合いのより有効な方法」「主体的な振り返り活動、その目的と方法」「主体的・対話的な学び」など、昨年度のプレ大会で明らかになった課題に対しての真摯な授業は参観者にたくさん示唆を与えるものでした。

また、檜山プレ大会も9月27日に「ふるさと檜山の未来を担う子らに 笑顔かがやく豊かな心と時代を生き抜く学びを」のスローガンのもと開催されました。管内の加盟校自体が少ないこともあって公開校は3校となりましたが、どの会場もへ

き地・複式の強みを生かし、子どもの変容に重点を置いた教育実践を公開し、盛会のうちに終えることができました。

この両大会を通して、学習過程の中での具体として、多くの学校では学習リーダーや交流場面（グループ・ペア）の設定、複式形態での学習ルール定着など、長年に渡って積み重ねてこられた複式スタイルの定着があり、それが児童の主体的・能動的な学習の姿として表れており、大きな成果であったと感じています。

これから両大会の成果と課題を第10次長期5カ年研究推進計画1年次としての整理・蓄積を図り、次年度の檜山本大会、オホーツクへの着実な推進・発展へとつなげてまいります。課題1～課題3に関わる実践発表（ふるさと学習等）、さらに遠隔システム活用などの取組・発信も期待し、「へき地・複式校だからこそできる教育」「へき地・複式校にこそこれからの教育の展望がある」との自信と誇りをさらに強くもてるよう研鑽を積んでまいります。

結びに、両大会の開催にあたりまして北海道教育委員会をはじめ多くの教育関係機関・団体にご指導ご支援いただきましたことに心より感謝申し上げます。道へき・複連情報166号発行にあたってのご挨拶といたします。

## 第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会を終えて



北海道教育庁空知教育局  
局長 竹林 亨



第68回全道へき地複式教育  
研究大会空知大会  
実行委員長 八柳 圭  
(長沼町立北長沼小学校長)

第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会が、全道各地から多数の先生方をお迎えし、盛大に開催されましたことに、心からお祝いを申し上げます。

北海道へき地・複式教育研究連盟におかれましては、長年にわたり、小規模・複式の特性を生かした実践研究を積み重ねられ、本道におけるへき地・複式教育の振興・発展に寄与していただいておりますことに、深く敬意を表します。

さて、今日、学校教育では、子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう学習の質を一層高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うなど、教育課程全体で実現していくことが求められています。

とりわけ、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」は、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげるとともに、具体的な学習内容、単元や題材の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要です。

このような中、本研究大会が、「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」を研究主題に、管内の7会場で開催され、公開授業では、「学習規律や学習過程を統一した取組による、見通しをもち、主体的に学習している姿」「学習形態やガイド学習の工夫による、学習リーダーを中心に言語活動を行う姿」「ICT機器等の効果的な教材教具の活用による、自力で課題解決に取り組む姿」などが見られました。

また、研究協議をとおして、「目標に即した効果的な学習形態の工夫」「次の学びにつながる振り返る活動の充実」等、学級における学習指導の特性を生かした主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の在り方について、参加者と理解を深められたことと思います。これらの成果が、各学校及び各地域におけるへき地・複式教育の一層の充実に向けて活用されますことを御期待申し上げます。

結びに、北海道へき地・複式教育研究連盟並びに空知へき地・複式教育研究連盟の今後ますますの御発展と会員の皆様の更なる御活躍を祈念し、御挨拶といたします。

9月19・20日の2日間、北海道の母なる川「石狩川」の恵みと緑の田園風景、自然豊かな森林と湖沼の広がる空知に、全道各地からへき地・複式の充実・発展に情熱を傾けておられる多くの皆様、約300名の参加をいただき、第68回全道へき地複式研究大会空知大会を開催できましたことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

本空知大会は、第9次長期5カ年研究推進計画最終年度としての「実践検証整理」を踏まえながらも、10次長期推進計画に基づく研究を推進して来しました。空知管内のへき地・複式校の協働・共育・共生の下、英知を結集し、共同化による組織的・計画的な実践研究に努め、大会スローガンを『緑濃き空知の沃野から 次世代を担う子らに 未来を切り拓く たくましい力を』と設定し取り組みを進めてきました。

1日目の全体会及び分散会、2日目の各会場での分科会と、両日とも、熱心なご協議をいただき、大きな成果を得ることができました。そして何よりも、参加者の方々から「各校の現状を交流し、学習指導で有効な手立てを話し合うことができた」「小規模校が減っていき、近隣に複式校が少なくなる中、研修を深める機会、複式を学べる場を作っていただき良かった」など、この研究大会の重要性を再確認できる声をいただき、大変嬉しく思っております。

ここ空知でも、学校の統廃合が加速度的に進み、加盟校の減少など、連盟の共同研究体制の構築も困難な状況にあります。しかしながら、子どもたちへ最善の教育環境を作りたいと、ご苦労されてきた先輩諸氏の意味と実績を継承し、保護者や地域住民の信頼に応えたいという、私たちの思いはお酌み取りいただけたのではないかと考えております。皆様から、忌憚のないご助言やご示唆を賜り、感謝申し上げます。

結びに、本研究大会の開催にあたり、ご尽力いただきました現地実行委員や分科会会場の教職員の皆様、多岐にわたるご支援、ご指導を賜りました北海道教育委員会、北海道教育庁空知教育局、北海道へき地・複式教育研究連盟、空知管内各市町村教育委員会等、管内外の教育関係機関の皆様に重ねて、感謝とお礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

# 基 調 報 告

第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会

研究部長 山下 正志



## 【空知の歩み】

本連盟は、昭和20年に空知単級複式教育研究指定協議会の発足に始まる。昭和27年には第1回全道単級複式教育研究大会空知大会を開催した。その後も昭和43年第17回、昭和54年第28回、平成5年第42回、平成19年第56回大会と計5回開催している。この間、「空知へき地・複式教育研究連盟」と改称し、空知管内のへき地・複式教育の充実・発展を担っている。

## 【現状とこれまでの研究】

現在、空知管内の小学校64校のうち約2割が複式校であり、ここ数十年で統廃合や極小規模化が進み、平成19年の前回大会時と比べると半減している。そのため、市町内に複式校が0または1校のみという状況が生じ、これまで市町内で進めてきた小規模校同士の交流が児童及び教職員ともに難しくなってきた。

本連盟ではこのような状況を受け、これまで原則単独で行われてきた管内大会を、平成20年度から共同研究ができるよう2つの支部でブロック体制を組織し研究を推進してきた。しかし、さらなる統廃合による学校数の激減により、ブロック体制が困難となり、平成23年度から再度単独開催へと変更した。こうした変革期にあっても、子ども一人一人の未来のために、複式教育を担う教師一人一人が「地域に根差した教育」をともに手を携えて取り組むことを目標に推進してきた。

これまでの計5回の全道大会や管内の研究大会等の成果及び課題から、研究推進における基本的な押さえを①道へき地・複式教育研究連盟が作成した研究推進計画を踏まえる。②第9次長計までの研究成果と課題について継承・発展させる。③長期・課題別・共同研究による研究方式をとる。④各関係機関・団体との連携を密にしながら、空知へき・複会員の意向を反映させる。⑤第10次長計に、次年度から本格実施される「新学習指導要領」や北海道「新しい教育計画」そして、新たな

教育の動向を踏まえた特徴的課題等を反映させることの5点とし、「生きる力」を育成するという教育理念の実現のため、子ども一人一人の良さを生かし伸ばす教育、豊かな自然を活用した体験的な学習、学校・家庭・地域社会の密接な連携による教育活動を推進している。

## 【大会スローガン】

「緑濃き空知の沃野から 次世代を担う子らに未来を切り拓く たくましい力を」

## 【空知大会の研究内容】

空知では第10次長計5か年計画の初年次の大会として、課題解決に向けた研究・実践の一層の充実と発展に努め、主題に迫る取組を推進している。

「学校・学級経営」は、①「特色ある教育課程の創造と推進」を研究内容とする学校がおよそ半数を占め、へき地三特性を生かし、地域に根差した特色ある教育課程の取組と、児童一人一人の個性や能力を生かし、多様な体験を重視した教育活動の充実を進めている。また、「学習指導」では、⑥「主体性を育てる学習指導過程」を研究内容とする学校がほとんどを占め、主体的・対話的で深い学びの視点から、児童一人一人の多様な考え方や個人差・学年差に即したきめ細かな指導の充実や 間接指導場面でのリーダー学習等、少人数においても相互に学び合い、高め合う学習指導過程の在り方を進めている。

空知大会は、各学校がそれぞれに設定した研究主題による研究を基本としながら、第10次長計との関連を図り、昨年のプレ大会で明確になった成果と課題の検証を推進していく。各会場校と協力校が連携を密にするとともに、管内的な情報交流も図りながら、これまで築いてきた「オール空知」で取り組む空知ならではの複式教育のよさを生かし、さらなる充実・発展を目指していく。

## 【むすびに】

空知大会開催にあたり、本研究大会に多大なるご支援、ご助言いただきました北海道教育委員会をはじめ、北海道教育庁空知教育局、北海道へき地・複式教育研究連盟、空知管内市町教育委員会教育長会、各市町教育委員会、各教育関係団体等の皆様に心より感謝を申し上げます。

# 分 散 会

## 【分散会Ⅰ報告 学校・学級経営】

■研究課題 新しい時代を拓く、  
開かれた学級経営を創造する。  
～主体的に考え、論理的な表現の育成を目指す～  
提言者 別海町立上風連小学校 教諭 中田 宗秀

### ■提言概要

別海町立上風連小学校では、研究主題に基づき、児童にどのような力を身に付けさせていくのか、また、その結果をどのように地域・保護者に発信していくのかを課題として取組を進めている。児童や保護者アンケートの結果からは、「自分の考えに自信を持つことができない」という傾向が見られ、子ども達が自分の考えに自信を持って表現できるように、日々の授業において、「主体的に考え、論理的な表現力を身に付けていくこと」を目指している。その中で、学習課題に対して、何をどのように学んだのかを自分での言葉で言語化できる力を身に付け、子ども達が言語化した自身の学びを家庭（保護者）に伝えることにより、「社会に開かれた学級（学校）経営」に繋がっていくものとおさえている。「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業づくりでは、①課題の設定（「何を学ぶのか」を明らかにし、児童生徒に見通しを持たせる。）②まとめ（「何を学んだのか」「何がわかったのか」「何ができるようになったのか」を全体で確認する。）③振り返り（「何をどのように学んだのか」を自分なりにまとめ、言語化させる。）に取り組み、特に学習の「振り返り」では、自身の言語化で論理的にノートに記述させる活動に力を入れている。また、学校長がブログで授業の様子等を発信することにより、「開かれた学級（学校）経営」を推し進めている等が提言された。

### ■研究協議

「主体的に取り組み、言語能力を育む学級経営の工夫」を討議の柱にグループ研究協議を行った。子どもが自由に発表できる環境作りが大切であること、外部の方を取り入れて子ども達に刺激を与え主体的に取り組ませるようにすること、子ども達が主体となって授業が進められるよう学習リーダーを育成すること、「開かれた学校経営」の取組では信頼関係が大切であること等が意見交流された。助言者からは、複式学級の利点にたち、個に応じた指導を充実させ、目指す子ども像を明確化することにより、どのような子どもに育てたいのかを学校全体で共有化していくことが大切であること、アンケートの結果から、授業全体の学習内容を振り返ることができたのかを分析し、授業改善に生かしていくこと、客観的なデータを積み重ねることにより、どのような資質・能力を身に付けさせるのかを明確にしながら指導計画の改善につなげていくこと等、子ども達に求められる「資質・能力」の向上に向け、学校全体で組織的・計画的に取り組むことの必要性について助言をいただいた。

## 【分散会Ⅱ報告 学習指導①】

■研修課題 主体的に考え、互いに考えを伝え合い、  
すすんで学ぶことのできる子どもの育成  
～一人一人の学びを広げる 授業をつくる～  
提言者 千歳市立東小学校 教諭 佐藤 昌二

### ■提言概要

東小学校児童は明るく仲良く何事にも真面目に取り組む、課題であった「いろいろな相手に自分の考えを述べる」ことができるようになってきた反面、友達の意見を聞いて自分の考えを発表することや話し合いの練り合いなどには課題が見られた。また、学習活動に対して主体性があまり高くなく、苦手教科に対する否定的な言動も見られた。そこで、いろいろな学習活動に対して前向きに取り組む、互いに考えを伝え合える子どもの姿を目指し、主題を設定した。

研究の仮説は①9年間を見越した学び方を身につけ、見通しを持って課題に取り組ませることにより、すすんで学ぶ子どもを育成することができるだろう、②一人一人が自分の学びを整理し、相手意識を持って考えを表現し合うことにより、学びを深めていくことができるだろうとした。研究の成果として、子どもに見通しを持たせ、交流の視点を明確化するという教師の意識が芽生えてきたことと、自分の考えをノートに整理して表現しようとする子どもの意識が高まりつつあることがあげられる。また、課題として、聞く力の向上を目指した課題設定や交流場面の工夫、主体的に考え、進んで学ぶ意識の向上を目指

した実践の積み上げが挙げられた。

### ■研究協議

「進んで考え 伝え合い 学びを深め合う学習指導の工夫」を討議の柱としグループ協議を行った。話し合いの決まりを全校で統一することや、話し合いのもととなる自分の考えを持つためのノートの取り方、相手意識を高めるための工夫、自分の考えを持つために、見通しを直接指導で気づかせることなど、少人数での伝え合い、深め合いの課題や、効果的な実践が活発に交流された。

助言者からは、間接指導時に、児童が次に何をするのか、何を学ぶのかという目的意識をもたせ、課題提示、学習方法、手順を児童と共有し、学習の流れを学校で統一することで、主体的に学ぶ基礎をつくるのが重要で、9年を見通して目指す子ども像を明確にすること、主体的に学ぶために、単元全体で授業をデザインし、確かな見通しを持たせること、学習したことを振り返る場面を位置づけること、振り返りによって次の学習への意欲付けを図り、更に主体的に考え学ぶ児童を育成していくこと、話し合い活動は、話し合うことで分かるきっかけを作ることができるよう、意図的な教師の働きかけが必要などの助言をいただいた。

## 【分散会Ⅲ報告 学習指導②】

■研修課題 『主体的に学び、自分の考えを  
わかりやすく伝える子の育成』  
～言語活動を生かし、自ら考え、対話する国語科の授業づくりを通して～  
提言者 中富良野町立西中小学校 教諭 清水 奈月

### ■提言概要

西中小学校の研究は、「主体的に学び、自分の考えをわかりやすく伝える子の育成」として国語科における論理的思考を高めることを通して進めている。研究内容として3つの研究内容を設定した。

一つ目は「単元計画の工夫」である。単元計画を導入・展開・発展の3つに分け、単元の見通し・課題の解決・表現とそれぞれの重点を決めて単元構成を行った。また、指導事項一覧表を作成・活用し、単元全体及び各時間でつきたい力を明確にして、課題設定につなげることができた。これらにより、単元の目標を意識した単元計画につなげた。

二つ目は「自ら思考し交流する学習活動の工夫」についてである。構造的な板書により、児童の思考を活性化させることを進めている。さらに、課題提示の工夫・演劇的手法・教育機器の活用・思考過程が見えるノート指導・学習リーダーの活用と実践を進めた。これらにより、より思考を深める学習活動を展開することができた。

三つ目は「学びを活かすための工夫」である。学びの成果を、次の学習に繋げるため、振り返りシートを活用した。これにより個々の児童に「この時間は何のためにどうやって学ぶのか」を意識化させることができた。

このように、3つの研究内容の推進により、言語活動を生かし、自ら考え、対話する子どもの育成を提言した。

### ■研究協議

「学びを活かし、自ら思考する学習活動の工夫について」を討議の柱に、グループ協議を行った。「単元計画の工夫」について、指導事項一覧表は教師側の押さえとして大切で、演劇的手法やICTなど、目標に即して活用することができる。「学習リーダー」については、授業のシナリオ化により、視点を明確にした学びができると評価された。一方、どの子も学習リーダーができる方策については課題とされた。「振り返りシート」については、見通しを持って深い学びができると考えられた。課題として、振り返りの時間がかかること、内容項目について整理することが挙げられた。

助言からは、見通し、振り返りの一連の流れは学びを活かすことに有効であると評価された。学習を進める力を身につけることは、将来、中学校・高校学校に行っても活用できることがあげられた。また、学習リーダーについては、パターン化から始まり、発展的に深い討議ができるような指導を、との指摘をいただいた。さらに、ICTの活用については、複数校での遠隔合同授業の実践例を紹介され、少人数で困難な討論についての解決方法を示された。各学校規模に応じ、子どもに身につけたい資質・能力を見極め、取り組みをすることが重要と、助言をいただいた。

# 各分科会報告

## 〈第1分科会：深川市立北新小学校〉

### 1 研究主題

『主体的に学び、互いに  
成長しようとする子の育成』

### 2 研究の成果

本校では3年次研究の最終年度ということで、これまでの研究を踏まえた上で、「学習の見通しをもたせる課題設定」「発達段階に応じた思考の可視化」「学習リーダーの役割と活用」を重点に、単式・複式に共通すべき点を洗い出しながら日常的な実践を積み重ねてきた。

本大会公開授業では、3・4年（国語）、5・6年（算数）の2学級を公開した。両学級とも、間接指導時の学習リーダーの役割を明確にさせ、主体的に学習に取り組むことができるような学習活動を取り入れた授業を公開することができた。見通しをもたせるための視覚的な支援（学習の流れや既習事項の提示）により、どの子も戸惑うことなく学習を進めることができたことも、大きな成果といえる。また、思考を保証するための十分な時間設定と、そのために指導者が子どもたちに任せて見守ることができたことは、主体的な活動を支えるために有効であった。

研究協議では、思考の可視化ツールとして使用した「クリアファイルの活用」に参加者からの関心が寄せられた。これらは、単式学級でも共通して指導・活用することを継続してきており、複式学級への移行に際しても子どもたちの抵抗感を軽減させることができるかと考える。



### 3 今後の課題

学習リーダーを中心とした間接指導時の学習や、ペア交流、全体交流などの学習で成果があげられた反面、交流をもとに子どもたちがより考えを深められるような活動の設定や、考えをどのようにまとめにつなげるかといった教師側の課題が明確にされた。また、授業内容にかかわって、見通しを持たせる、ゴールをイメージできる課題の設定と、ゴールを共有できるまとめの方法については、さらに研究を深めていく必要があると確認された。

## 〈第2分科会：深川市立納内小学校〉

### 1 研究主題

『協働的な関係を築き、  
集団としての学習力を高めるために』  
～算数科における、コミュニケーション  
能力を生かした授業の構築～

### 2 研究の成果

#### 研究内容1 学習過程、基礎基本・学習規律の定着について

全学級が研究授業を行い検証を行ってきた。研究授業によって多様な指導方法が共有され、より具体的に授業分析が出来たことは、大きな成果である。特に児童が見通しをもって授業にのぞむことで意欲的に学習に向かう姿勢が見られるようになった。また、児童の評価（振り返り）も学習過程に位置づけ、児童が学習内容を再確認したり、成長・内容・過程を振り返ったりすることで、次時への意欲や主体的な学びにつながっていった。

更に学習リーダーを積極的に活用することで、児童が学習に主体的に関わり、自ら問題解決をしようという意欲が育った。

#### 研究内容2 表現する場の設定、教師の関わり、言語活動の充実について

学級の実態と授業のねらいに応じコミュニケーションの場や形態を設定したことで、積極的に児童



同士が交流する場面がみられ、議論が活性化することが確認された。更に、児童のコミュニケーションへの教師の関わり方を明確化することにより、児童主体の話し合い活動を活性化することができた。算数における言語活動や算数用語を正しく使うことで、友達にわかりやすく伝えることが出来るようになってきた。

### 3 今後の課題

話し合い活動の更なる充実のため、話し合いの仕方や学習リーダーの育成を発達段階に応じて行っていく。また、図や表を活用した表現活動やノート作りができるように目指す子どもの姿や活動をより明確にし、低学年から系統的に積み上げて力をつけていく。これらを全校での取組に発展させる。

## 〈第3分科会：美唄市立峰延小学校〉

## 1 研究主題

『自己学習力を身につけ、  
学び続ける子どもの育成』  
～算数科における効果的な間接指導のあり方～

## 2 研究の成果

**仮説1** 峰小スタイルを確立して基礎的な力をつけさせることにより、意欲をもって学びに取り組むことができるであろう。

○問題・課題・まとめなどの書き方を統一し、授業自体や子どもの学びの見えるような配置の工夫など、学年や内容に合わせた板書計画を立てることができた。また、指導案の中に間接指導時の子どもの動きを記すことにより、活動が明確になってきた。

**仮説2** 間接指導時の学習形態、学習方法を工夫することにより、自分の学びを広げることができるであろう。

○同時間接の時間を取り入れることにより、子どもの活動を見取り、状況に応じた指導にも対応できるようになってきている。また間接指導時の自学自習の姿勢が整い、学習リーダーが育ってきた。ステップカードは、児童の思考を手助けし自力解決学習をスムーズに行うためには、効果的であるということが分かった。

**仮説3** 「ふり返し」を意識した学習を進めることにより、すすんで学び続けることができるであろう。

○視点を掲示したり、「まとめる」の段階でふり返し活動を位置づけたことにより、短期間での取り組みではあったが、子どもたち自身の言葉でアウトプットすることができたと考える。



## 3 今後の課題

- ・ステップカードの効果的な活用方法を、今後も考えていく必要がある。
- ・子ども自身にふり返りの意義を実感させ、授業を通してふり返りの習慣化を図る工夫、次時の授業への期待を高めることや家庭学習などへつなげるなど「ふり返し活動」のさらなる充実を図っていく。

## 〈第4分科会：岩見沢市立メープル小学校〉

## 1 研究主題

『自分の考えを表現し、深め合う子どもの育成』  
～伝え合い活動の工夫を通して～

## 2 研究の成果

本研究は3年計画の3年次目であり、これまで伝え合い活動を重視した授業作りを目指して、①「学習ガイド」を利用したリーダー学習、②4パターンによるまとめ方（尊重型、順位型、集約型、分類型）の伝え合い活動、③基礎基本の定着、表現力を高めるための学習指導（言葉の宝箱の活用した短文作り）を3本の柱として、研究を進めてきた。

研究の成果としては、学習ガイドが定着し、間接指導の際に子ども達が自分たちで学習を進めることによって、誰もが主体的に授業に参加できるようになり、自分たちの言葉を伝え合いながら学習活動を進められるようになってきたことが上げられる。子ども達の「主体的・対話的で深い学び」のある学習が以前より充実してきたと考えている。また、まとめ方の4パターンが定着してきたことにより、伝え合いの活動をする際、子ども達は授業の見通しをしっかりと持ち、安心して授業に臨むことができるようになった。

公開研究授業後に行われた研究協議では、ワークショップ形式で話し合いを行い、これらの成果が確認された。

## 3 今後の課題

研究協議の中では、参加者の方々から「もっと子ども達同士のやりとりの方法を工夫する必要がある。」というご意見を頂いた。今後はこれらの意見を参考にして、これまでに培ってきた伝え合い活動の取り組み（学習ガイドを利用したリーダー学習、4つの型の伝え合い活動、基礎基本の定着・表現力を高めるための学習指導）を充実・発展させ、より一層「主体的・対話的で深い学び」のある授業作りを推進していきたいと考える。



## 〈第5分科会：栗山町立継立小学校〉

## 1 研究主題

『主体的に話し合い、  
互いに高め合う子どもの育成』  
～進んで発表し合い、考えを  
深めるための算数科の指導の工夫～

## 2 研究主題・研究の成果

**仮説 1** 「課題解決への見通しを持つことによって、主体的に自分の意見や考えを持つとともに、積極的に友達に伝えようとするができる。」

**仮説 2** 「友達と話し合い、様々な意見や考えを聞くことによって、友達の考えを理解したり、自分の考えを見直したりすることができる。」

**仮説 3** 「集団解決の中で、伝え合い、練り合うことによって、より深く広く考えることができ、互いに認め合い、高め合うことができる。」

本校では、3年計画の最終年次ということで、「学習リーダーの育成」「話し合いの目的」「到達目標の作成」「『学びを深め、考えを整理する』時間の確保」を研究の中心に進めてきた。

当日は、単式学級である3年と、複式学級である5・6年の2学級の授業を公開した。研究の成果としては、学習ガイド・スタイルによる学習が定着し、児童に学習過程・授業の流れが浸透し、スムーズに思考を進めることができるようになった。また、意欲的に学習リーダーに取り組んでいけるようになった。

正解を求めることだけにとどまらず、不正解や勘違いの中からも新たな発見があることに気づき、意見の発表から交流へと発展する姿も見られた。



## 3 今後の課題

「学びを深め、考えを整理する」時間の確保のため、子ども達が考える場を吟味した教科書の活用。

より深い練り合い・高め合いのできる話し合い活動の更なる充実のため、考えの発表ではなく、意見を交流する場の設定や、発達段階に応じた基礎スキル「聞く・話す」や問題解決スキル「評価する」などの到達目標をより学校全体で取り組みやすいものにする必要がある。

## 〈第6分科会：長沼町立長沼舞鶴小学校〉

## 1 研究主題

『共に学び、互いに高めあえる子どもの育成』  
～根拠を明確にし、自らの考えを  
表現できる算数科の指導を通して～

## 2 研究の成果

学習過程を4段階に設けたことは、特に複式では有効であった。少人数の特性を生かし、レディネスチェックとそれにもとづく支援方法をまとめたことが児童個々に応じた課題の設定と学力の変化の見取りに役立っている。

ヒントカードを使うことで、児童が一人でも多様な考え方や解き方に触れることができた。学習リーダーの育成も、各学年に応じて相応に育成することができた。

板書・ノート指導は、課題やまとめの仕方、自分の考えの書き方などに児童が慣れ、スムーズに書けるようになってきた。また、全校でノート指導と板書を統一していることで児童が見通しをもてる土台となっている。

解決方法を自分なりの言葉で表現し、相手に伝えることができるようになってきた。



## 3 今後の課題

まだ一部身に付いていない学習規律があるため、今後も継続して指導していくことが必要である。

ICT機器の活用についても積極的に取り組む余地がある。ヒントカードを使う児童と使わない児童がいるため、使うタイミングを考える必要がある。学習の振り返り活動の取り組みを言語も継続して推進していくことで、より学習効果の高まりが期待できる。

児童は自分の考えを発表できているが、聞き手を意識していないため児童同士で意見をなかなか交換できていないところが見られる。

少人数ではあるが児童と教師が対話する、友達の解き方を説明できる等の工夫が必要である。そのことが自分の考えをまとめ、発表する力をより高めることにつながる。

## 〈第7分科会：長沼町立南長沼小学校〉

### 1 研究主題

『学び合い考えを深める子どもの育成』  
～「主体的・対話的で深い学び」を

実現する算数科の授業づくり～

### 2 研究の成果

「南小授業スタイル～教えて・考えさせ・つなげる授業」を確立するために「教えて考えさせる授業」を基本に授業づくりを行なった。

#### 研究内容1 『確かに学ぶ力』を育む指導の工夫

短時間で本時の学習のポイントをわかりやすく端的に教え、確認問題や応用問題にじっくり取り組ませることで、児童の学力の定着、向上が見られた。また、全学年にわたってノート指導の共通化を図り、系統的な指導をすることにより、学習内容の積み上げにつなげることができた。

#### 研究内容2 『考える力』を深める指導の工夫

「理解確認～考える」「理解深化～ひろげる・深める」の場面で自力解決をする時間を設定している。児童が自分で課題を解決することにより、深く考える力が身につけてきている。

#### 研究内容3 『学び合う力』を高める指導の工夫

授業の中に「ペア学習」「グループ学習」の2つの学習形態を取り入れている。「ペア学習」では、自分の考えを伝え、友だちの考えを聞くことで、自分の考えを整理し、まとめる力が身につけてきている。「グループ学習」では、自分の考えを発表し、グループ内で意見交流をすることにより、考えをまとめ深める姿が見られた。また、全体交流の場面で他のグループの発表を聞き、自分の考えと比較することで、学びを深めることができた。



### 3 今後の課題

今年度をもって閉校となるが、統合したあと子どもたちが生き生きと学習し学び合うことができるように、学習リーダーの育成、児童が主体的に学ぼうとするための課題設定など、更なる授業改善を行っていく必要がある。



開 会 式



分散会 I (学校・学級経営)



閉 会 式



歓迎交流会





開会式（古田委員長挨拶）



基調報告（山下研究部長）



分散会Ⅱ（学習指導①）



分散会Ⅲ（学習指導②）



閉会式（空知大会実行委員長へ感謝状贈呈）



閉会式（次期開催地挨拶）



分科会（授業公開）



分科会（研究協議）

# 次期開催地から 第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会

## 檜山の地で皆様とともに学ぶ機会を楽しみにお待ちしております

第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会 実行委員長 **本谷弘之**

第10次長期5か年研究推進計画の初年度に位置づけられた空知大会が、全道各地より多くの参加者を迎え、成功裏に終えられましたことに、心より敬意を表します。大会実行委員の皆様、そして各学校教職員の皆様の、用意周到なご準備と温かい心配りの丁寧な運営でおもてなしをいただきましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、空知大会の成果と課題を引き継ぐ第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会は、来年9月24日(木)に全体会と分散会を江差町で、25日(金)に分科会を檜山管内3町3会場において『ふるさと檜山の未来を担う子らに 笑顔かがやく豊かな心と時代を生き抜く学びを』を大会スローガンに開催いたします。

12年前の檜山大会では、20校あった檜山へき地・複式教育研究連盟加盟校も、急激な人口減に伴う学校の統廃合が進み、現在では8校となりました。

た。しかし、私たちの使命の大きさは、目の前に子供がいる限り、学校数や学校規模に左右されるものではありません。

前大会では、「問題解決的学習の指導過程」「個に応じた学習」で高い評価が得られました。今大会では、会場が3会場と規模は小さくなりますが、複式教育の原点である「地域に根ざした、開かれた学校教育」の意味を踏まえ、「生きる力」の育成をめざし、それぞれの持つ教育課題を解明・解決し、相互に交流を図ることによって成果と課題を実感できる実のある大会となるように努めます。

荒海に沈む夕日が絶景な北海道南部の、道内振興局中、最も面積の小さい檜山管内に全道各地から皆様をお迎えし、北海道のへき地複式教育の充実と発展に向け、共に研究を進め合えることを楽しみに、実行委員会一同、皆様のお出でを心よりお待ちしております。

### ■檜山大会スローガン

## 『ふるさと檜山の未来を担う子らに 笑顔かがやく豊かな心と時代を生き抜く学びを』

### ■開催期日

令和2年9月24日(木) 全体会・分散会 25日(金) 分科会

分科会	会場校	研究主題 ～副主題～	分野・課題 教科等
今金	今金町立種川小学校	「自分の考えをもち、主体的・対話的に学ぶ学習指導の工夫」 ～共に学び、高め合える算数科の授業づくりを通して～	学校・学級経営 3 学習指導 5・6 算数
乙部	乙部町立栄浜小学校	「主体的・対話的で深い学び」に向かう子どもの育成 ～少人数のよさを生かした、算数科の指導の工夫～	学校・学級経営 2 学習指導 4・6 算数
上ノ国	上ノ国町立河北小学校	「基礎・基本を身に付け、自ら進んで学習する子どもの育成」 ～算数科授業における個に応じた指導の工夫～	学校・学級経営 2 学習指導 5 算数